

# 平成 31 年度東部公民館事業計画(案)

## 1. 地域の状況

東部公民館は JR 津田沼駅前位置しており、駅前周辺は区画整理事業によって大型店・都市銀行等の企業が相次いで進出した結果、より近代的な商業都市へと変貌を遂げた。

昭和 28 年、船橋市公民館前原分館として設立し、昭和 35 年の機構改革により「東部公民館」と改称し、昭和 52 年 4 月に津田沼駅前の区画整理事業により現在地に新築開館した。対象地域は前原東・前原西・中野木全域 3.04k m<sup>2</sup>で、対象人口は平成 30 年 10 月 1 日現在 22,681 世帯、45,751 人である。交通の便等、立地条件にも恵まれ、多くの市民に利用されている。

なお、現在、建て替えに向けた計画が進められている。

## 2. 経営方針

「船橋市総合計画後期基本計画」「船橋市教育大綱」「船橋の教育」及び「第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画」に基づき、「生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし」の実現のため、公民館運営審議会の意見や地域住民の学習ニーズを掌握し、関係機関・団体と連携して、多様な生活課題や今日的課題に対応した学習機会と交流の場を提供していく。

また、基幹公民館として地区公民館の支援と情報交換に努める。

## 3. 重点目標

- (1) 接遇日本一を目指し、あいさつを大切にし、明るく丁寧な窓口対応を心がける。
- (2) 青少年向け事業については、青少年育成団体や学校・児童ホーム等関係団体・機関と連携を深めながら、青少年の体験活動や主体性を伸ばしていく事業に取り組む。
- (3) 家庭教育の向上・子育て支援事業については、引き続き重点的に実施するとともに、「家庭」「地域」「学校」を積極的に結び付けていく。子育て連絡会による子育てフェスタの企画・運営を通して家庭教育支援チームの育成を図る。
- (4) 成人事業については、現代的課題や地域の生活課題への視点を大切にして取り組む。20代から40代の青年層や働く女性を対象とした学習機会を提供し、参加者層の拡大を図る。
- (5) 高齢者事業については、健康と生きがいをづくりの視点から取り組む。
- (6) 文化・体レク活動については、町会・自治会、地区社会福祉協議会、老人クラブ、社会教育関係団体等と連携・協力し、地域交流の推進を図る。
- (7) 東部ブロック内公民館の施設管理の計画的運営を図り、安全で快適な利用環境を整える。

## 4. スローガン

「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の拠点となる公民館（社会教育施設）を目指す。

- ・人づくり…自主的・自発的な学びによる知的欲求の充足、自己実現・成長
- ・つながりづくり…住民の相互学習を通じ、つながり意識や住民同士の絆の強化
- ・地域づくり…地域に対する愛着や帰属意識、地域の将来像を考え取り組む意欲の喚起、住民の主体的な参画による地域課題解決

# 平成 31 年度三田公民館事業計画(案)

## 1. 地域の状況

三田公民館は市域の東部に位置し、管区内に 3 小学校、2 中学校を有している。平成 30 年 10 月 1 日現在の管区内人口は 35,370 人(16,266 世帯)で、市内全公民館の中でも比較的多くの人口を抱え、地域とのつながりが強い公民館である。周辺に、歴史ある神社・寺院(二宮神社、正法寺、神宮寺)や巨樹古木などの自然が存在する、静かな住宅街の中に位置している。

三田公民館は船橋市立三田中学校第 1 体育館と併設されており、建物は 1 階が公民館、2 階が体育館となっている。そのため、サークルの利用のほかに中学生の部活動で利用されることもある。

## 2. 経営方針

社会教育法の理念や「船橋市総合計画後期基本計画」をはじめ、本市の教育方針である「船橋市教育大綱」、「船橋の教育－教育振興ビジョン及び教育振興基本計画－」及び「第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画(ふなばし一番星プラン)」などにに基づき、地域や学校及び各種団体等と連携・協力して、乳幼児から高齢者まで広く多様な学習機会を提供するとともに、身近な公民館として、地域の方々が気軽に立ち寄れるよう職員一同心がけ、人と人とのつながりを大切にしていく。また、避難所、投票所としての公共施設の役割を果たすよう努める。

## 3. 重点目標

- (1) 親しみやすい公民館を目指し、あいさつや地域の方々とのコミュニケーションを大切に、明るい窓口対応を心がける。
- (2) 子供の発達・成長などその段階に応じた育児を支援するため、乳幼児を対象にした事業を展開するとともに、子育て中の若い母親同士の交流の場づくりを進める。
- (3) 学校や地域、青少年関係団体等と連携・協力を図り、青少年の健全育成に努める。
- (4) 成人を対象に、健康・教養・文化・歴史など広い領域で学習の機会を提供する。
- (5) 高齢者を対象に、学習の機会・場を提供し、社会参加と健康の維持・増進を図る。また、関係行政機関等と協力して今日的課題等のテーマに取り組み、生きがいを推進する。
- (6) 管内の小中学校と連携した公民館事業を展開するほか、町会自治会・地区社協・老人クラブなどの団体と協力して地域づくりに努める。
- (7) 公民館を利用する社会教育関係団体の活動を支援し、サークルの維持発展に努める。
- (8) 市民が安心して公民館を利用できるよう、施設の維持・補修に努める。また、地域防災の拠点として災害時には避難所となることから、防災意識の向上を図る学習機会を提供する。

## 4. スローガン

目指せ!地域の「HUB」

# 平成 31 年度習志野台公民館事業計画(案)

## 1. 地域の状況

習志野台公民館周辺の地域は戦前軍の演習地であった。戦後、開墾のために入植した人達によって地域が形成され、昭和 42 年に習志野台団地が完成して以来、ベッドタウンとして発展した。現在は、郵便局や警察署・図書館・総合体育館などの公共施設整備が進み、東部地区の要となっている。また、平成 8 年には東葉高速鉄道が開通して新京成北習志野駅に乗り入れ、都心との距離が短くなり住宅地として発展してきている地域である。

公民館の対象地域は、習志野台及び西習志野の約 4km<sup>2</sup>、人口は平成 30 年 10 月 1 日現在で世帯数 20,417 世帯、人口 44,012 人であり、館区内には公私立合わせて、小・中学校が 6 校、高校が 2 校、大学が 2 学部存在する文教地区でもある。

## 2. 経営方針

「船橋市総合計画後期基本計画」で目指す【生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし】へ向けた【文化の薫り高い豊かな心を育む生涯学習都市の形成】を基盤に、「船橋の教育・教育振興ビジョン及び後期教育振興基本計画」及び「第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画(ふなばし一番星プラン)」に基づく、生涯学習社会の実現に向けた地域の拠点施設として、地域性を考慮した学習環境の整備や事業計画を策定しながら、地域の関係機関、団体との連携を密とし、地域活動の一旦をも担う公民館運営に努める。

## 3. 重点目標

- (1) 接遇日本一を目指し、利用者とのコミュニケーションを大事にし、常に利用者側の目線での館運営に職員一人ひとりが意識をしながら業務にあたる。
- (2) 青少年事業については、学校や町会・自治会、地域の各種団体等と連携し、ふなばしハッピーサタデー事業の推進を軸に、学校の授業とは違う「気付き」や「創造性」を育む体験型学習機会の提供に努める。
- (3) 家庭教育及び子育て支援事業については、子育てや家庭教育に悩みを持つ親を中心とした学習機会を提供する。
- (4) 高齢者事業については、生きがいや仲間づくりを援助する環境の整備と、健康増進を図るための学習機会の提供に努める。
- (5) 自己の充実や啓発、生活の向上が図れるように、多様なニーズに対応した学習機会の提供や学習活動の支援に努める。
- (6) 地域との繋がりや交流場として活用されるように、同じ施設内にある東図書館、近隣の習志野台児童ホームと連携し、更なる支援体制作りに努める。
- (7) 地域に即した公民館活動を展開するため、地域(習志野台、船橋市)にこだわった人材の発掘と人材活用による事業の実施により学習素材を地域へ還元する。

## 4. スローガン

「あふれる笑顔をイ・チ・バ・ンに！」

# 平成 31 年度飯山満公民館事業計画(案)

## 1. 地域の状況

飯山満公民館は、JR 東船橋駅の北東で、東葉高速鉄道飯山満駅から徒歩 10 分の高台に位置している。この地域は、市道飯山満七林線を南北からはさむ起伏に富んだ、もとは肥沃な農業地域であり、現在も公民館の近くは畑が広がっている。その周辺では昭和 40 年頃から民間の住宅開発、さらに日本住宅公団の芝山団地の造成によって人口の急増を見た。

平成 8 年、東葉高速鉄道が開通し、付近の区画整理事業が計画されている。対象地域は飯山満町・二宮・滝台町・滝台の全域 3.09 平方キロメートルで、平成 30 年 10 月 1 日現在、対象人口は 12,819 世帯、29,044 人である。公民館の立地が管区の北西部に偏っているうえ周辺に住宅が少ないことから集客に課題はあるが、管区には小学校 2 校、中学校 2 校、高等学校 1 校が存在し文教的環境を構成しているとともに、公民館の北西には取掛西貝塚、周辺には寺院、神社が多く歴史的にも貴重な地域であり、地域のコミュニティ活動も盛んである。

## 2. 経営方針

本市の教育指針である「船橋の教育」及び「第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画」に基づき、本市が目標とする「生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし」の実現に努めていく。

この実現にあたっては、市民一人ひとりが主体的に生涯学習に取り組み、生き甲斐をもって生活を送ることができるよう、公民館運営審議会の意見や地域住民のニーズに適応した学習の機会及び情報の提供に努め、自主的な学習活動と心の通い合うコミュニティ活動を支援する。

## 3. 重点目標

- (1) 地域住民が幅広く気軽に集うことが出来る親しみやすい公民館作りにより一層努める。
- (2) 地域住民の学習へのニーズを的確に把握し、事業のマンネリ化を避け、常に新しい魅力のある事業を開催するため、地域の各団体や社会教育関係団体等との連携を図り、生涯学習の機会の提供に努める。
- (3) 生涯学習コーディネーターとの連携及び協働に努め、公民館事業の更なる充実と住民の地域活動への参加促進を図る。
- (4) 児童ホームや地域の各学校等と協働して、核家族化、少子化に対応した子育て学習や遊び、情報交換や交流の機会を提供し、子育て支援、家庭教育事業の充実を図る。また、地域の青少年教育に関係する団体と連携して、ハッピーサタデー事業等青少年に係わる事業を推進する。
- (5) 若者や新たな利用者を取り入れるため、事業内容の見直しや公民館広報の充実を図る。
- (6) 施設の計画的な管理運営を図り、快適な学習環境づくりを目指すとともに、災害時の福祉避難所としての安心安全な施設管理に努める。

## 4. スローガン

“来てみたら結構楽しい！飯山満では「元気な挨拶」「とびきり笑顔」が溢れてる”

# 平成 31 年度薬円台公民館事業計画(案)

## 1. 地域の状況

薬円台公民館の管区は、薬円台、七林町、薬園台町全地域としている。古くは江戸時代中期に菓草園として開発された地域で、その後は、畑作の新田村として受け継がれてきたが、現在では、急速な開発により農地の大部分が新興住宅となり、中規模マンションが増えつつある。新京成薬園台駅前には、常に、地域のボランティア団体によって四季の花が植えられている。対象区域の面積は 1.56 平方キロで、対象人口は平成 30 年 10 月 1 日現在、18,630 人(8,798 世帯)である。地域には小学校 3、中学校 1、高等学校 1 があり、さらに郷土資料館、社会福祉会館があり、文化の町の趣を呈している。

## 2. 経営方針

「生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし」の実現のため、「船橋市総合計画後期基本計画」「船橋市教育大綱」「船橋の教育-教育振興ビジョン及び後期教育振興基本計画-」「第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画(ふなばし一番星プラン)」に基づき、公民館運営審議会の意見や地域住民のニーズを把握し地域諸団体と連携して、多様な生活課題や現代的課題に対応した学習機会を提供し、地域の実情に即した生涯学習を推進する住民参加型の公民館を目指す。

## 3. 重点目標

- (1) 笑顔の挨拶を心がけることで地域住民に親しまれる公民館を目指すと同時に、信頼され安心して利用できる公民館となるよう適正な事務執行を徹底する。
- (2) 青少年の健全育成を推進するため、地域の学校・PTA、児童ホーム、青少年関係団体と連携を深めながら青少年に様々な体験の場を提供し、心豊かにたくましく生きる子供の育成に努める。
- (3) 子供の成長に合わせた育児を支援するため、乳幼児親子を対象とした事業を実施すると共に子育て中の保護者同士が交流できる機会の提供に努める。
- (4) 子供から高齢者まで地域住民の多様な学習ニーズに応えられるよう、生涯学習コーディネーター等と共に事業を企画・運営し、地域住民との協働事業の充実に努める。
- (5) 薬円台地区町会自治会連絡協議会、薬円台地区社会福祉協議会等と共にスポーツ・レクリエーション活動を楽しむ機会を作り、また、地域スポーツ活動等を積極的に推進・支援していくことにより、地域住民が生涯健康で豊かな心と身体を育むように努める。
- (6) 施設の計画的な管理運営を図り、快適な学習環境づくりを目指すと共に、災害時の福祉避難所として避難者に対しても安心安全な施設管理に努める。
- (7) 館報、ホームページ等による広報活動を積極的に行い、公民館活動に対する理解を深める。

## 4. スローガン

やりたいこと、見つかる薬円台